

Overview

Our History

オリンパスは、1919年に顕微鏡の国産化を目指し創立され、それから約30年後には、世界初の実用的な胃カメラの開発に成功しました。最初の製品を世に送り出してから100年以上にわたり、社会に向けて新しい価値を創造し続けています。

医療製品

1950年
世界で初めて実用的な胃カメラを開発



1964年
ファイバースコープ付き胃カメラ「GTF」発売



1966年
当社初の「生検用スコープ」および「処置具（生検鉗子・細胞診ブラシ）」発売



1975年
医療用硬性内視鏡分野に参入



世界初のハイビジョン内視鏡システム「EVIS LUCERA」発売



ビデオ内視鏡システム「EVIS EXERA」発売



「EVIS LUCERA SPECTRUM」発売



消化器内視鏡ビデオスコープシステム「EVIS EXERA III」
「EVIS LUCERA ELITE」発売



ソニー・オリンパスメディカルソリューションズで開発した4K技術搭載の外科手術用内視鏡システムを発売



3DおよびIR（赤外光）観察に対応した外科手術用内視鏡システム「VISERA ELITE II」発売

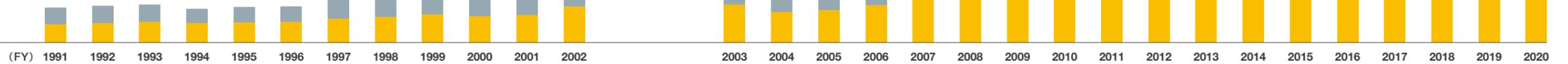


2020年
次世代消化器内視鏡システム「EVIS X1」発売



売上高の推移

■ 医療分野 ■ その他
(注) 情報通信事業の売上高除く(2005年~2013年3月期)
2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS



創業
1919年10月

1919年~1950年代 1960年~1980年代 1990年~2010年 2011年~2015年 2016年~2018年 2019年~

創業と経営近代化への道

- 1919 「株式会社高千穂製作所」として創立(顕微鏡の国産化を目的)
- 1921 商標を「オリンパス」として登録
- 1949 社名を「オリンパス光学工業」と改称
東京証券取引所に株式上場

医療分野の進化の歴史

世界初の実用的な胃カメラを開発

東大第一内科の医師と当社技術開発陣との共同開発で胃カメラ実用化に成功。ファイバースコープの登場で胃の中を直接リアルタイムで見ることが可能に。

光学総合メーカーへの発展、海外販売拠点の拡充

- 1964 欧州現地法人設立
- 1968 米国現地法人設立
- 1979 カリフォルニア州に米国拠点設立
(現 北米最大の医療修理サービス拠点)
- 1989 中国北京市に駐在事務所、シンガポールに現地法人設立

外科事業への参入

内視鏡が外科治療にも使われることを想定し、1979年にドイツの硬性鏡メーカーを買収、外科内視鏡分野に本格的に進出。

医療分野の多角化

- 2001 テルモ(株)と提携
- 2004 Celon AG社買収
- 2008 中国(上海)に初のトレーニングセンター設立
英国Gyrus Group PLC社を買収
(医療分野における外科領域を強化)

ビデオスコープで新時代へ

先端部にCCDを組み込んだビデオスコープにより、画像をテレビモニターに表示し、複数の医療従事者が観察状況を共有可能に。

原点回帰と医療分野へのリソースシフト

- 2011 過去の損失計上の先送り発覚
- 2012 新経営体制が発足
ソニー(株)との業務・資本提携
情報通信事業を譲渡
- 2013 東京証券取引所による当社株式の「特設注意市場銘柄」の指定解除
海外市場での資金調達(約1,100億円)

「内視鏡外科手術」の発展

HD画像の外科内視鏡や、高周波と超音波を同時出力する世界初の外科手術用エネルギーデバイス、3Dや4Kの外科内視鏡等、革新的な製品を順次投入。

経営再建ステージから持続的発展ステージへ

- 2016 医療用内視鏡関連の開発・製造拠点(会津・白河・青森)を増強(新棟竣工)
- 2017 米国Image Stream Medical社を買収
- 2018 経営理念を改定

特殊光観察で「光を診る」時代へ

「NBI(狭帯域光観察)」の開発等、技術的な進展が加速。内視鏡は観察だけではなく、治療や処置の役割も果たす医療機器として進化。

真のグローバル・メドテックカンパニーへ

- 2019 企業変革プラン「Transform Olympus」発表
経営戦略発表

経営戦略の詳細は、Chapter 02をご覧ください。

科学・映像製品

<p>1920年 当社初の顕微鏡「旭号」発売</p>	<p>1936年 当社初のカメラ「セミオリンパス」発売(カメラ事業に参入)</p>	<p>1963年 世界初のハーフサイズ一眼レフカメラ「オリンパスペンF」発売</p>	<p>1968年 当社初の工業用ファイバースコープを発売</p>	<p>1983年 世界初のAF機能搭載万能顕微鏡「AH2」発売</p>	<p>2006年 非破壊検査機器「OmniScan IX」発売</p>	<p>2009年 当社初のミラーレス一眼「OLYMPUS PEN E-P1」発売</p>	<p>2013年 ミラーレスのフラッグシップ機「OLYMPUS OM-D E-M1」発売</p>	<p>2016年 工業用内視鏡「IPLEX NX」発売</p>	<p>2016年 共焦点レーザー走査型顕微鏡「FV3000」発売</p>	<p>2016年 ハンドヘルド蛍光X線分析計「VANTA」発売</p>	<p>2019年 OM-Dシステムのプロフェッショナルモデル「OLYMPUS OM-D E-M1X」発売</p>
---------------------------------------	--	---	---	--	--	---	---	--	---	--	---

At a Glance

当社では、内視鏡事業および治療機器事業で構成される医療分野が売上高の8割を占めています。

医療分野

内視鏡事業



売上高構成比*1
53.4%
4,257億円

病気の「早期診断」に貢献する消化器内視鏡や、患者さんの身体への負担が少ない「低侵襲治療」に貢献する外科用内視鏡。これらを通じて、世界中の医療従事者を支え、世界の人々の健康に貢献します。当社の主力製品である消化器内視鏡は世界シェア70%以上を有しています。

治療機器事業



売上高構成比*1
27.1%
2,161億円

消化器内視鏡に挿入して処置や治療を行う内視鏡処置具や、内視鏡外科手術において血管封止や組織の切開等に使用するエネルギーデバイスに加え、泌尿器科婦人科や耳鼻咽喉科で使用される内視鏡等、医療従事者や世界の人々の期待に応えるさまざまな医療機器を提供します。

主な製品



消化器内視鏡
ビデオスコープシステム



外科手術用
内視鏡システム



手術用顕微鏡システム



リポセス



修理サービス



システムインテグレーション

主な製品



消化器科関連処置具



呼吸器科関連処置具



泌尿器科婦人科製品



耳鼻咽喉科製品



エネルギーデバイス、
その他外科用シングルユース製品

海外売上 **80%超**



科学事業



売上高構成比*1
13.2%
1,052億円

オリンパスが創業時から製造している顕微鏡は、病院等における血液検査やがん診断等の病理検査、生命科学や医学分野の最先端研究、製造ラインでの品質管理等、さまざまな場面で活躍しています。また、工業用ビデオスコープや超音波探傷器等、点検検査の場面で活用され、社会インフラの安全を支えています。

主な製品



生物顕微鏡



デジタルマイクロスコープ
(工業用顕微鏡)



工業用内視鏡



非破壊検査機器



蛍光X線分析計

映像事業*2



売上高構成比*1
5.5%
436億円

世界一流のレンズ加工技術により最高峰の画質を実現するオリンパスのカメラは、世界中の写真家から愛されています。小型・軽量なミラーレス一眼カメラ、防塵・防水設計によりアウトドアシーンで活躍する「Tough(タフ)」シリーズ等、個性的なカメラを生み出し続けています。

主な製品



ミラーレス一眼カメラ



交換レンズ



コンパクトデジタルカメラ



ICレコーダー

*1 2020年3月期
*2 映像事業を新会社として分社し、日本産業パートナーズ株式会社が管理・運営等をする特別目的会社に対して2021年1月1日に譲渡する予定です。

その他事業

売上高構成比*1
0.9%
68億円

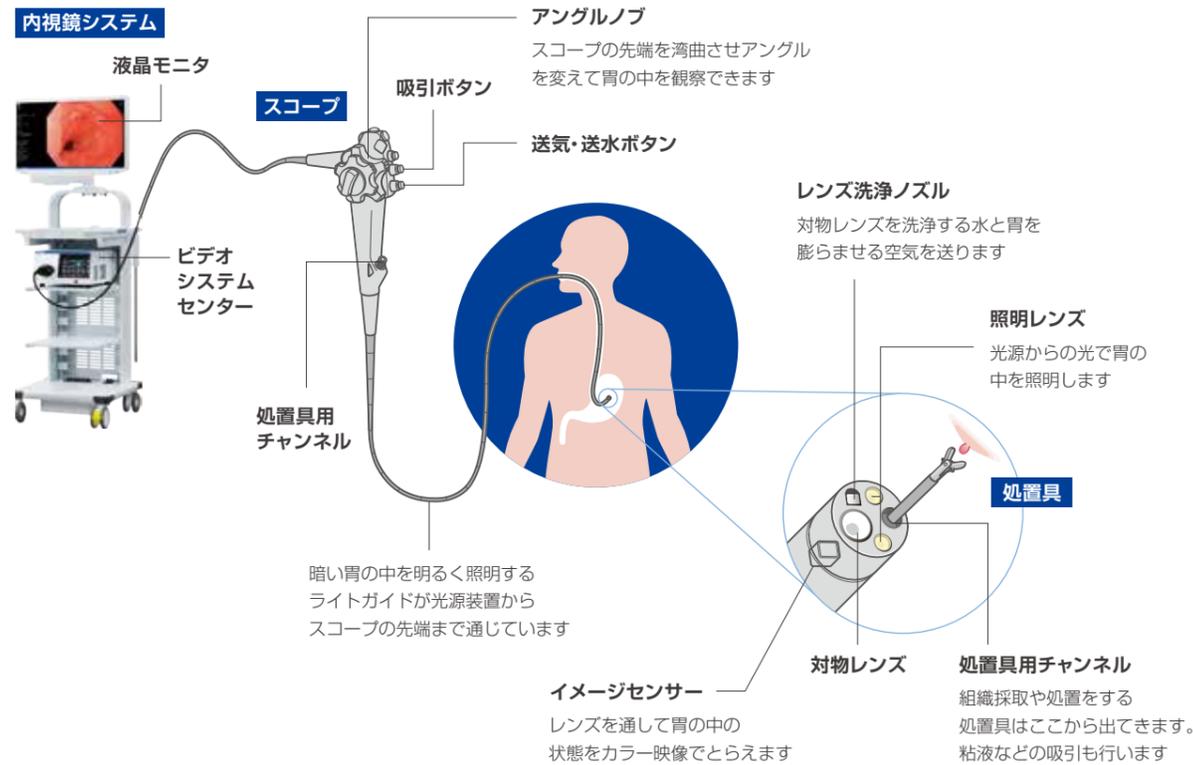
人工骨補填材等、生体材料の販売等を行っているほか、新規事業に関する研究開発や探索活動に取り組んでいます。将来の柱となりうる新事業の探索、将来技術の獲得に向けた研究・探索を推進しています。

Our Products

早期診断

- 当社の主力製品である消化器内視鏡は、病変の発見・診断・治療の質や検査効率の向上を目指した技術を搭載することで、がんなどの消化器疾患の病変を初期の段階で発見することにも貢献しています。
- また消化器内視鏡での観察において疑わしい病変が見つかった場合には、その部位を採取して病理検査を行ったり、誤飲した異物の摘出やポリープ切除など、さまざまな治療を行うことも可能です。

消化器内視鏡による病変の早期診断の例 / 処置具による低侵襲治療の例



使用される主な部位

- 食道
- 十二指腸
- 胃
- 胆管
- 大腸
- 呼吸器(気管支)

スコープの種類

〈軟性鏡〉

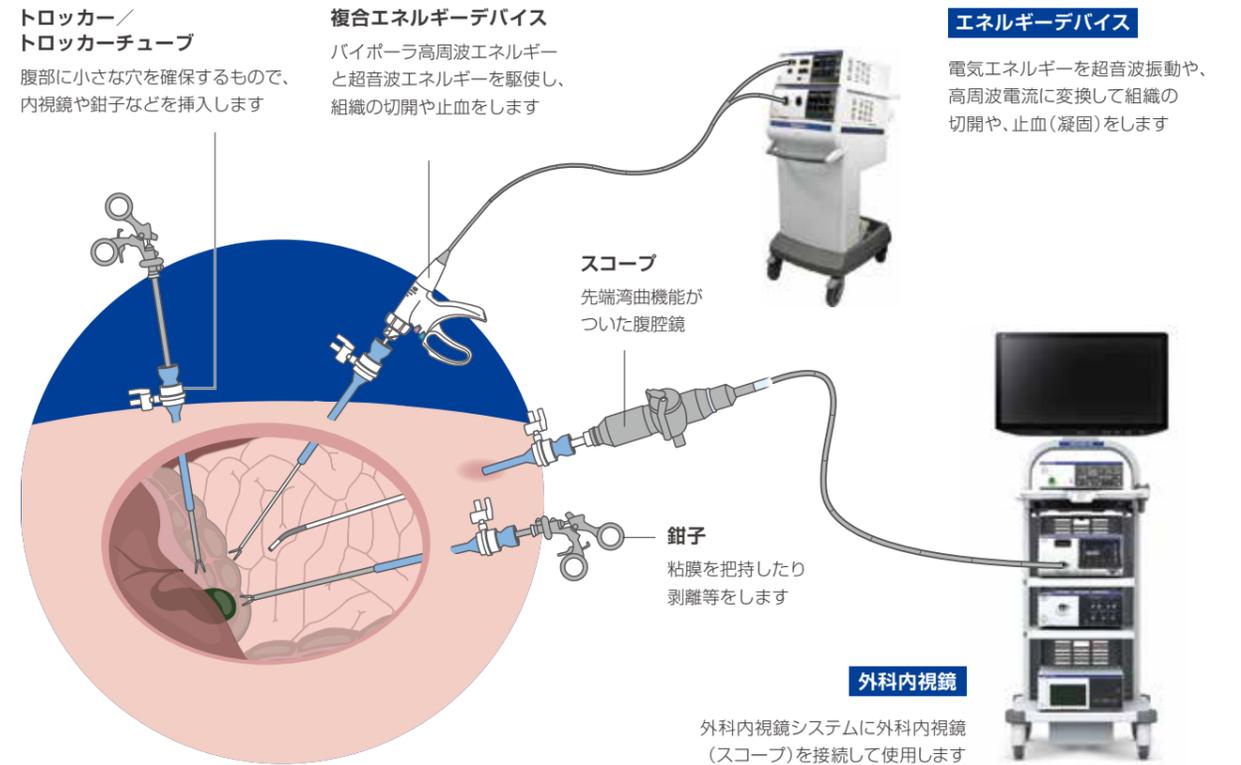
先端部分が曲がる特性を活かし、口や鼻等から挿入して器官の中等を自在に検査・治療することに適しています



低侵襲治療

- 当社の外科内視鏡は、腹腔鏡手術に用いられています。この手術は、従来の開腹手術のようにおなかを大きく切る必要がなく、患者さんの感じる術後の痛みが少なく済むと言われており、入院期間の短縮や早期の社会復帰を実現するなど、さまざまなメリットがあります。

腹腔鏡手術の例



使用される主な診療科

- 消化器外科
- 耳鼻咽喉科
- 呼吸器外科
- 婦人科
- 泌尿器科

スコープの種類

〈硬性鏡〉

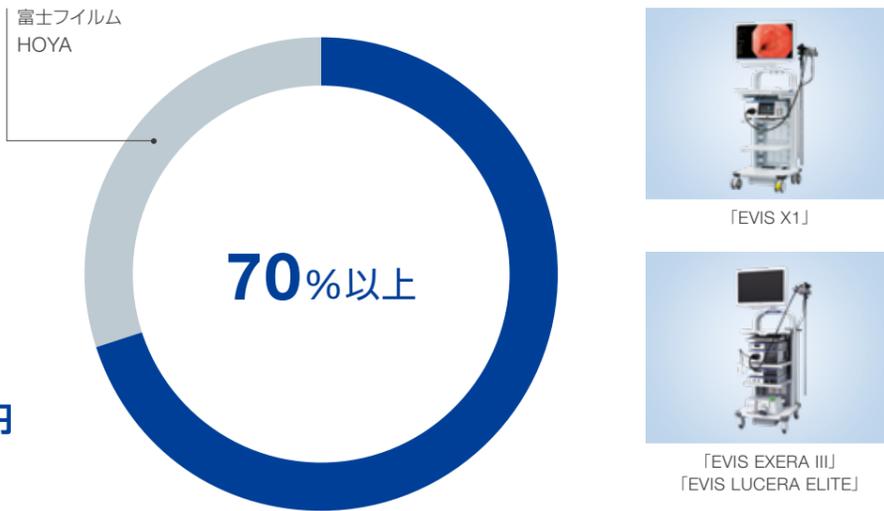
金属製の筒の中にレンズを収めた硬性鏡は、腹腔鏡手術と呼ばれる内視鏡を使った外科手術に適しています



Our Market Share

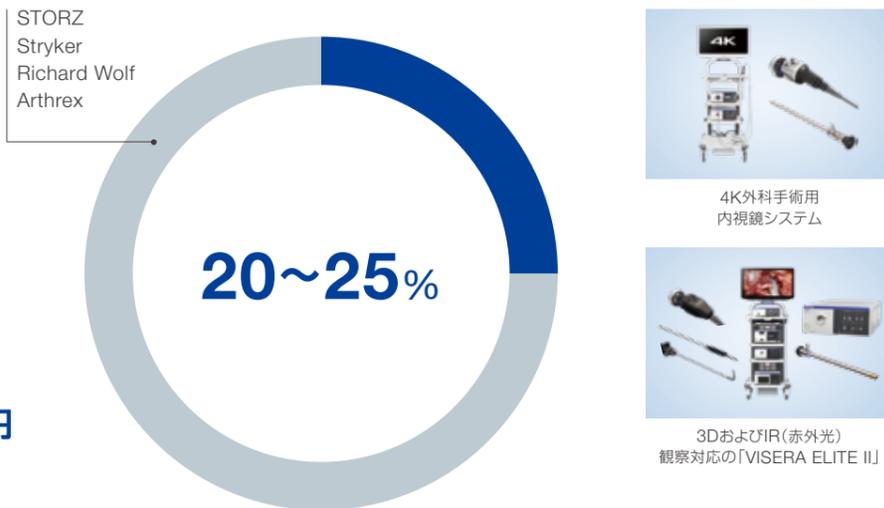
内視鏡事業

消化器内視鏡



市場規模(成長率見通し)
3,500~3,700億円
(CAGR:4~6%)

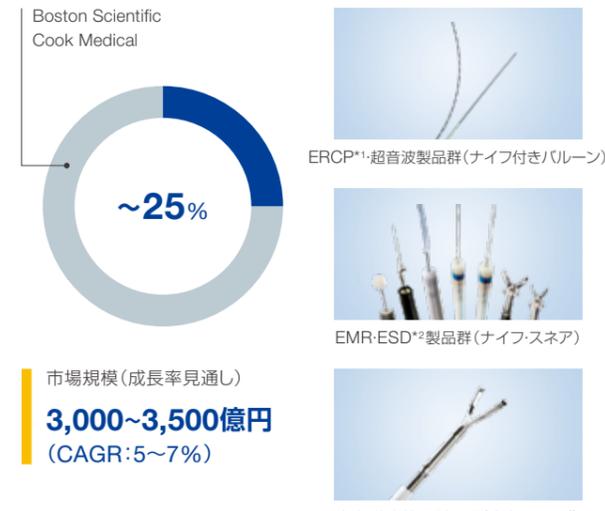
外科内視鏡



市場規模(成長率見通し)
2,600~2,900億円
(CAGR:2~4%)

治療機器事業

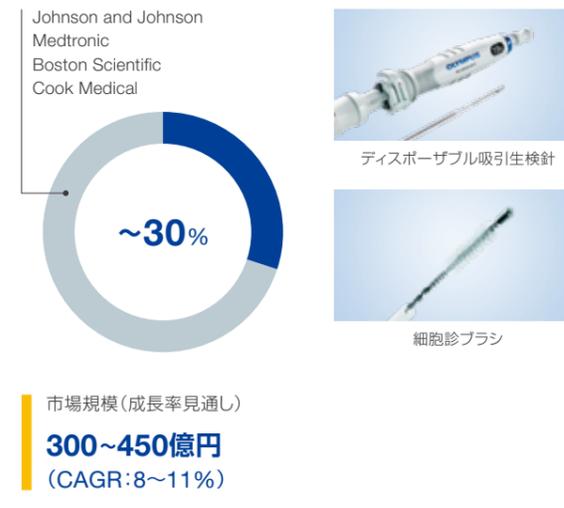
処置具(消化器科)



市場規模(成長率見通し)
3,000~3,500億円
(CAGR:5~7%)

*1 ERC:内視鏡的逆行性胆道膵管造影術
*2 EMR:内視鏡的粘膜切除術
ESD:内視鏡的粘膜下層剥離術

処置具(呼吸器科)



市場規模(成長率見通し)
300~450億円
(CAGR:8~11%)

泌尿器科



市場規模(成長率見通し)
3,000~3,500億円
(CAGR:5~7%)

その他の治療領域



*3 腹腔鏡手術用/開腹手術用
*4 鼻科手術用

(注)本ページのシェア、市場規模、成長率見通しは自社調べ。シェア、市場規模は2020年3月末時点。成長率見通しは2020年3月期から2023年3月期。